勇気を出す

教会機関誌
ローリー・フラー・ソーサ
（ほんとうにあった話をもとに書かれました）

今日は初等協会の発表の日です。ブレイデンはきんちょうしていました。自分のパートは何度も練習してきました。でも，大勢の人の前で話すのがこわいのです。

「今日は教会に行きたくない！」とブレイデンは言いました。「こわすぎて，自分のパートが言えないんだ。」

ママはブレイデンをぎゅっとだきしめました。「教会で話すのってこわいことがあるわね。でもたくさん練習してきたでしょう。あなたならできるわ。」

「一緒においのりをしようか？」とパパがたずねました。「天のお父様に，勇気が出せるように助けてくださいってお願いしよう。」

ブレイデンはうなずきました。

ママとパパとブレイデンはひざまずいて，うでを組みました。

「愛する天のお父様」と，ママがおいのりしました。「ブレイデンが勇気を出せるように助けてください。自分のパートを言えるように助けてください。」

おいのりをした後，ブレイデンは車に乗りこみ，みんなで教会に向かいました。

ブレイデンは，ほかの子供たちと一緒に壇上にすわると，こわくなりました。でも，おいのりしたことを思い出しました。すると，少し気持ちが楽になりました。

もうすぐ，ブレイデンが話す番です。見わたすと，みんながブレイデンに向かってニコニコしていました。ママとパパがいます！ ブレイデンは深く息をすいこみました。それから，自分のパートを大きな声ではっきりと言いました。すべての言葉を思い出せました。

イラスト／アダム・ハウリング

教会の後で，「とてもよくできたわね」とママが言いました。「おいのりがこたえられたようね。」

ブレイデンはにっこりしました。「天のお父様が助けてくださったんだ！」

ブレイデンたちは一緒に車にもどりました。「どんな気持ちがした？」パパがたずねました。

「やっぱりこわかったけど，大丈夫だったよ」とブレイデンは言いました。「自分のパートを言い終わったら，良い気持ちがしたよ。」

「その良い気持ちが何だか分かる？」とママがたずねました。

ブレイデンは少し考えました。「せいれいだと思う。」

「そうね」とママは言いました。「そして，こわかったけれども勇気を出せるように，せいれいが助けてくださったのね。」●